

四明知禮の誓願觀

——特に觀音菩薩の十大願を中心に——

呂 淑 玲

四明知禮の誓願觀については『千手眼大悲心呪行法』の中
にみるができる。この『千手眼大悲心呪行法』は、知禮
が宋の建隆元年―天聖六年（西紀九六〇―一〇二八）に唐の伽
梵達摩が訳した『千手眼觀世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅
尼經』に説かれていた三昧行法を十科に分かつて作つたもの
である。觀音菩薩の十大願とは、『千手眼觀世音菩薩廣大圓
滿無礙大悲心陀羅尼經』における觀音菩薩の願である。四明
知禮は、『千手眼大悲心呪行法』の中で觀音菩薩の十大願に
ついて述べている。

この『千手眼觀世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經』は、
略して『大悲心陀羅尼經』とも呼ばれている。この『大悲心
陀羅尼經』の本文の中には次のように示されている。

南無大悲觀世音 願我速知一切法。南無大悲觀世音
願我早得智慧眼。南無大悲觀世音 願我速度一切衆。
南無大悲觀世音 願我早得善方便。南無大悲觀世音
願我速乘般若船。南無大悲觀世音 願我早得越苦海。

南無大悲觀世音 願我速得戒定道。南無大悲觀世音
願我早登涅槃山。南無大悲觀世音 願我速會無爲舍。
南無大悲觀世音 願我早同法性身。

この十大願については、四明知禮の『千手眼大悲心呪行法』
の中に、「縱百千願亦何出於四弘。況此十耶。」と説かれてい
る。これによると、四弘誓願がこの十大願の基になっている
のである。

天台智顗の『釋禪波羅蜜次第法門』に、四弘誓願という名
について述べられている。

四弘誓願者。一未度者令度。亦云衆生無邊誓願度。二未解者令解。
亦云煩惱無數誓願斷。三未安者令安。亦云法門無量誓願知。四未
得涅槃。亦云無上佛道誓願成。此之四法。即對四諦。

この文から、智顗がこの「衆生無邊誓願度」以下の四つの
誓願を四弘誓願という名で呼んでいたことがわかる。天台智
顗の『釋禪波羅蜜次第法門』に説かれている「度」「解」「安」
「涅槃」の四弘誓願の源流を探ることにする。

梁の法雲（四六七―五二九）の『法華經義記』の中には次のように示されている。

四弘誓如寶繩交絡。（中略）未解者令解。未度者令度。此兩誓則持大悲拔苦也。未安者令安。未涅槃者令得涅槃。此兩誓願則持大慈與樂也。

また、隋の吉藏の『法華義疏』の中にも同じく次のように示されている。

明四弘誓願者。未解者令解。未度者令度。未安者令安。未涅槃者令得涅槃。前二即是大悲願。後二即是大慈願也。

これらの文には、四弘誓願の前二願は大悲、後二願は大慈の願であると説かれている。そうすると、天台智顗の四弘誓願の前二願は大悲、後二願は大慈という説は、法雲の説に基づいていると思われる。この『法華經義記』は『妙法蓮華經』の「藥草喻品」の文を解釈しているのだから、「度」「解」「安」「涅槃」の四弘誓願は『妙法蓮華經』の「藥草喻品」の文が初出になると思われる。これについて、香川孝雄氏の『浄土教の成立史的研究』には次のように説かれている。

梁の法雲によつて指摘された如く、四弘誓願の四句は『法華經藥草喻品』の文より由来する。しかしその文は誓願ではなくて、仏徳を讃歎するものであった。仏徳讃歎の四句は阿含・ニカーヤにおいても認められるものであり、古くから定型化していた四句を『法華經』が採用したのであろう。誓願思想の発達と共に、それが、誓願文として利用された。それは「マハーヴァスツ」が述べる如

く「我も仏の様な徳を具えた仏になりたい」という願いから、仏徳讃歎の四句が誓願の四句として転化したのであろう。

この文章では、「度」「解」「安」「涅槃」の四句が「衆生無邊誓願度」以下の四句として転化したのであると主張されている。要するに、「度」「解」「安」「涅槃」の四句が「衆生無邊誓願度」以下の四句の原型であるということになる。

さらに四明知禮の『千手眼大悲心呪行法』には、「又願不依諦名為狂願」と説かれている。ここでは、四諦が四弘誓に なっているのである。これに関して、天台智顗の『釋禪波羅蜜次第法門』には次のように述べられている。

此之四法。即對四諦。故瓔珞經云。未度苦諦令度苦諦。未解集諦令解集諦。未安道諦令安道諦。未証滅諦令証滅諦。

ここから、「度」「解」「安」「涅槃」の四法と四諦の教説が對比されて説かれる經典は、『菩薩瓔珞本業經』であることがわかる。この經典は、中国の仏教、特に天台に大きな影響を与えたと考えられている。

以上から、観音菩薩の十大願の由来順序は「四諦」↓「四法」↓「四弘誓願」↓「十大願」という順序であろうと考えられる。

では、四明知禮は四諦と観音菩薩の十大願とをどのように対比しているのだろうか。これに関して、『千手眼大悲心呪行法』には次のように説かれている。

依苦諦立云衆生無邊誓願度。依集諦立云煩惱無數誓願斷。

依道諦立云法門無量誓願知。依滅諦立云佛道無上誓願成。

ここから、

苦諦 ↓ 衆生無邊誓願度 集諦 ↓ 煩惱無數誓願斷

道諦 ↓ 法門無量誓願度 滅諦 ↓ 佛道無上誓願成

の關係を見出すことができる。

また、四明知禮は次のように説いている。

初二依集諦立。……三四依苦諦立。……五六七八依道諦立。……

九十依滅諦立。

ここから、

知一切法、得智慧眼 ↓ 集諦

度一切衆、得善方便 ↓ 苦諦

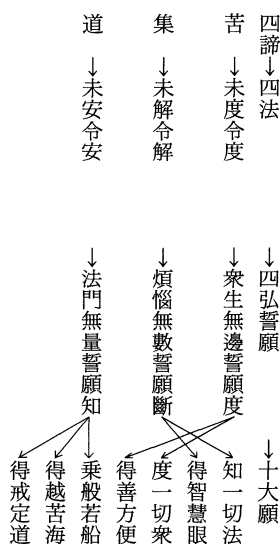
乘般若船、得越苦海、得戒定道、登涅槃山 ↓ 道諦

會無為舍、同法性身 ↓ 滅諦

の關係を見出すことができる。

以上から、観音菩薩の十大願の由来は次のような表を作つ

て説明することができる。



減 ↓ 未得涅槃令得涅槃 ↓ 佛道無上誓願成

↓ 會無為舍

↓ 同法性身

要するに、四諦説は釈尊がサルナートの初転法輪で説示された仏教の基本となる教理であるが、四明知禮の観音菩薩の十大願観はこの釈尊の四諦説に基づく誓願であると考えることができよう。

〈キーワード〉 四明知禮、『大悲行法』、十大願

（佛教大学大学院）